

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society Region Emergence Department

emmy fes 0.8 in 岩見沢 (9/26)

北大 COI&NEXT 主催の emmy fes 0.8 が、9/26 に岩見沢市自治体ネットワークセンターで開催されました。今回は、北大環境健康科学研究教育センターのシャロン・ハンリー特任講師によるヒトパピロームウイルス (HPV) ワクチンに関する講演会と、岩見沢市で HPV ワクチン接種の拡大およびプレコンセプションケアを実施する際の課題や、具体策を話し合うワークショップを実施しました。

吉野 PL はオープニングにおいて、プレコンセプションケアを含めた若者健診と HPV ワクチン接種をさらに広めていく意義を強調し、それをサポートする北大 COI & NEXT の『若者健診センター構想』を紹介しました。また、『令和 4 年度課題解決型ローカル 5G 等の実現に向けた開発実証事業 (総務省)』に採択された、母子などのヘルスケアを搭載した自動運転 EV バスを使用する『ローカル 5G を活用した地域モビリティによる遠隔高度医療サービス提供に関する実証 (代表機関 NTT 東日本)』の計画について説明しました。

ハンリー特任講師は自身が行った調査で、厚生労働省がワクチン接種の推奨を控えた 2013 年から、子宮頸がん罹患率およびそれに起因する死亡率が、今後有意に上昇するという結果を発表し、子宮頸がん排除の課題の 1 つである、接種率を向上させる啓発活動のヒントとして、イングランドとスコットランドの事例を紹介しました。

また、子宮頸がんの約 8 割は HPV16 型と 18 型が原因で、これらは現在公費で接種できる HPV ワクチンで予防可能なため、9 価 HPV ワクチンの定期接種化を待つ必要はないとの見方を示しました。

ワークショップでは、HPV ワクチン接種を今後さらに拡大したり、プレコンセプションケアを実施したりする際の課題として、性教育に抵抗感を示しがちな親世代に対し、正しい情報を『健康教育』としてわかりやすく伝える方法や、若い世代が気軽に相談できる場所や雰囲気づくりなどがあげられました。北大 COI&NEXT は引き続き、「他者 (ひと) とともに、自分らしく幸せに生きる社会」の実現に向けて、岩見沢市ともに取り組んでいきます。



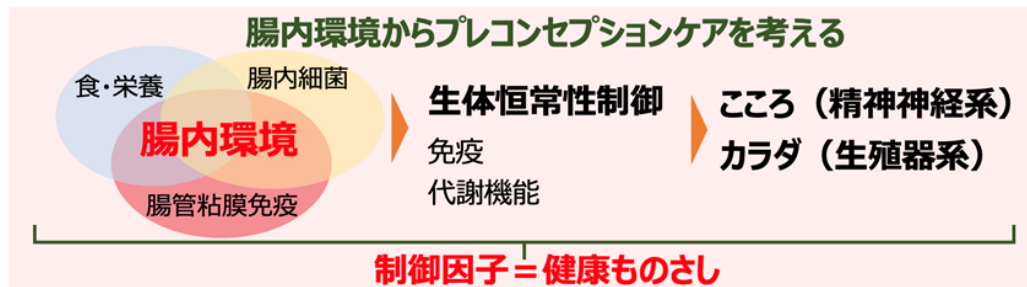
【予告】emmy fes 0.9 満を持してフェス開催！ (11/5)

北大 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点は、『スポーツ ×アート ×テクノロジーで地域を知る・体験する』をテーマにした emmy fes 0.9 を、11/5 (土) に岩見沢市で開催します。

3 × 3 ゾーンでは、3 人制プロバスケットボールリーグ『3 × 3.EXE PREMIER』に参入している『HOKKAIDO IWAMIZAWA FU』と同リーグからのゲストチームが来場し、DJ による音楽と融合した白熱のゲームを繰り広げます！ステージゾーンでは、北海道の市町村や特産品をテーマにした楽曲をつくっている『ハンバーガーボーイズ』のライブパフォーマンスが行われます。VR ゾーンでは、岩見沢上空での大迫力鉄骨渡りや大ジャンプなど、話題のテクノロジーを体験できます。そのほか、北大の学生サークルによるフィンランド発祥のスポーツ『モルック』の体験や、自分を見つめなおす『気づきカフェ』など、多彩なイベントが盛りだくさん！さらなる詳細は次号以降でお知らせします。

こころとカラダの健康度合を判断する、『健康ものさし』の開発をめざして

脳と腸が密接に影響を及ぼしあう「脳腸相関」はよく知られていますが、腸内環境と「心（脳・うつ）」および「カラダ（高妊孕力期間延長）」の分子・細胞レベルでの詳細な



メカニズムは、いまだ明らかにされていません。こころとカラダのライフデザイン共創拠点で、研究開発課題リーダーを務める中村公則准教授は、腸管に存在する抗菌ペプチド『αディフェンシン』をはじめとする、若者のこころとカラダの健康度合を客観的に判断する指標としての『ものさし』の開発をめざしています。

中村先生率いる研究チームは、北大 COI 岩見沢母子健康調査において、小腸のパネト細胞が分泌するαディフェンシンが、腸内細菌叢（そう）を適切にコントロールすることをつきとめました。宿主にとって、腸内にいる細菌が有益なものかどうかを選別し、有害な場合は排除することによって、宿主を病気から守ったり、病気を改善したりするのです。さらに同研究からは、腸内細菌、αディフェンシン、および食べ物の相性良し悪しが、宿主の健康を維持するためには必要不可欠である、ということもわかりました。

中村先生は最近の研究において、精神的ストレスがαディフェンシン量を減少させ、その結果、腸内細菌叢の制御ができなくなるという脳腸相関を、世界で初めて明らかにしました。様々な研究結果から、腸内細菌叢が破綻すると、精神神経疾患や、男女それぞれにおける妊孕力に影響があることが報告されており、それらは腸内環境を改善することで好転する可能性があると考えられます。しかし、腸内フローラとも呼ばれる腸内細菌叢は、非常に個人差が大きく、多様性に富んでいるため、一概にどれが良い腸内細菌叢かを定義することができません。個人個人の腸内細菌叢の制御がうまくいっているかどうかを客観的に判断する方法として、中村准教授は、腸管粘膜免疫ではたらくαディフェンシンの量を計測する『ものさし』に注目しているのです。

こころとカラダの『ものさし』を使用して、自分の腸内環境について正しい知識を持ち、腸内環境を整える食事をとることで、自分固有の自然免疫を強くすることが可能になる時代がもう目の前にきています。今後の中村先生の研究に、ご注目ください！



中村 公則

北大 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点
研究開発課題リーダー
北海道大学 大学院 先端生命科学研究院 准教授

VOICE

私たちの腸で生活する約 40 兆個以上の細菌は、免疫・代謝・生殖さらには脳神経などさまざまな生体機能に大きく関与します。すなわち、私たちは腸内に存在する細菌と生涯にわたり共に協力しあうことで「こころ」と「カラダ」の健康を維持しています。COI-NEXT プロジェクトでは、心身共に良好で安定した状態を保つためにはどのように腸内細菌と向き合い、付き合っていけばよいのかを、科学的視点から解明して解決策を提示することで、さまざまなライフステージにおいて、いつでも自分らしい最適な選択を前向きにできる社会の実現を目指していきたいと思ひます。

今後のイベント（予定）

- 9.30 emmy fes 0.8 in 東京
- 10.1 長崎大学海洋未来イノベーション
機構 第 9 回東京セミナー
(石井 PL 登壇)
- 10.14 イノベーションジャパン内セミナー
(吉野 PL 登壇)
- 10.25 第 4 回参画機関会議
- 11.05 emmy fes 0.9 in 岩見沢

S-RED 通信バックナンバー

S-RED通信

